

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Happiness kids 香椎浜				公表日	令和 7年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		・教室内に段差はなく、イオンもバリアフリー対応になっている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	4	・換気が出来ない。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	4	・クールダウン室が設置されている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		・朝礼など全員がそろっているタイミングで行うことを心掛けている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	4	・職員の意見を言う場が少ない。	・カンファレンスを増やす	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7		・定期的に相談士さんに来所いただいている。 ・評価はあるが、業務改善についての話し合いはない。	・相談支援委や学校と密な連携をとる	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・研修の内容をより実践で活かしやすいものにしてほしい。 ・月に一回サンクスさんの研修を受けている。	・学びたいことを明確にし、研修内容の発信をする	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		・定期的なモニタリング、担当者会議を行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・全児童に担当職員がついており、より詳しい情報の元検討できる。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・朝礼で確認のもと行っている。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	3		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。		7	・「4つの基本活動」について把握していない。	・職員間で支援について学び、共通認識を持つ
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7				
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2	・医療との連携が足りない。 ・必要な児童に対して連絡を取り連携している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1	・他事業所も合わせて担当者会議を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		7	・今まで事例がないため今後対象の児童がいれば対応する。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	6	・必要な児童に対して行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		7		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		7		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4	・研修が足りない。 ・通信で発信している。	・療育に対する専門知識を広げる為、様々な研修に参加する
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	1	6	・契約の際に話をしている		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7				
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	2			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	6	・年に一度、自由参加の親子行事がある。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	1	6	・シュレッダーにかけるなど対策は行っているが、事業所のドアが開けばなしなど注意が足りない時も見られる。 ・改善はされたが書類が多くある部屋に指紋認証がつかまで7か月掛かった。その間、児童も出入りは自由であった。職員も個人スマホを利用している。	・指紋認証が付く前まで一応カギはあった。 ・代表と話して決める（社用携帯を増やす）
	44	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		7	・職員にはマニュアルで周知しているが家族にはできていないため共有を行う。 ・今後していく予定。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2	5	・行っているが定期的ではない。 ・今後していく予定。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3	4	・保護者が発信してくれた範囲では把握している。	・社内マニュアルを作成する
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	3		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	1	6	・話し合いはあるが安全計画は作成されていない為、職員間で話し合い、作成する。	・今年度から委員会設置
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	3	・送迎時に行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	3		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	4	・契約時に説明をしている。 ・拘束をしたことがない。（必要な場合は事前に保護者に確認を取る）		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス HappinessKids 香椎浜		
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童の特性である集団行動の苦手さを薄めるための集団プログラムの確立。	・学校休業日に行う社会体験活動を行い、児童の経験値を上げるプログラムの実施。	・職員のスキルを上げ、保護者の思いに対応出来るよう職員研修の充実を図り、児童の特性に対応出来る職員集団にしていきたいと考えている。
2	・将来を踏まえ自立に繋がるプログラムの確立。 ・一人ひとりの特性に応じた個別プログラムの実施。	・個別プログラムを行う際に職員の担当を決め、児童の特性に応じた手厚い個別対応を行う。	
3	・セラピストによる個別リハによる児童の苦手さの向上を目指すと共に児童のADLの向上も目指す。	・保護者との面談回数を複数回持つことで、保護者の思いの聞き取りや寄り添うことを行っている。	

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・学校休業日に社会体験活動を行うことは行っているが、児童が居住する地域でのコミュニティーを育む活動への参加や計画が希薄と感じている。	・地域情報を保護者や学校関係者から入手する努力が足りなかったと感じている。	・地域情報の入手を保護者や学校関係者から行うと共に関係機関(基幹支援センター・相談支援事業所等)からも定期的に連携を密にし情報の共有が出来るようにしたい。
2	・事故、防災(火事・地震・津波等)。衛生管理について等マニュアルの作成は行い職員間での共有は行っているが、保護者に対する報道が行っていない。	・避難訓練等事業所では必ず行っているが保護者に対する情報の共有を考えていなかった。	・今後は毎月、保護者向けの事業所通信を活用し、保護者に対する情報の共有を図ることを行いたい。
3			